

おおさる山乃家の 楽しみ方

担当 尾池 優香、玉川 ひろみ
 園 おおさる山乃家 ☎027・285・6151

コロナ禍で、自然の中でゆっくりとした時間を楽しむ人が増えていますが、前橋にも豊かな自然の中でキャンプを楽しむ施設があることを知っていますか。今回は、粕川町中之沢の林間研修施設「おおさる山乃家」を取材。前橋の自然やキャンプを満喫する人に話を聞きました。



取材日は晴れて風もなく、まさしくキャンプ日和でした。市街地から車で約1時間。途中、一本道が奥まで続き、本場にこんな場所にあるのかと思いがら進むと大きなテントや川、赤い鳥居が見え、おおさる山乃家に到着しました。

同施設には宿泊施設とテントサイトがあり家族連れやキャンプ好きの仲間同士が週末に利用しています。他の多くのキャンプ場とは異なり、テントサイトは階段のように段々になった場所にあるため、隣を気にせず楽しむことができるのが特徴です。敷地は赤城山の登山口ともつながっているので、キャン

プでの利用はもちろん、登山前日の宿泊や登山帰りの休憩やシャワーなどで気軽に利用ができます。

また、大自然を生かした、気軽に楽しめるイベントも定期的に開催しています。11月まで開催していた「森の謎解き」は、同施設の敷地内に散りばめられたクイズを探して謎解きをするイベント。小学生が対象ですが、問題を探し解くのは大人の私たちでも難しい時が！謎解きを楽しみながら自然も楽しめました。染め物や焼き物のワークショップなども開催されていて、昔ながらの体験になじみが少ない人にとって、特別な体験のように感じました。

おおさる山乃家

☎ 土日曜・祝日、市立小中学校の
春夏冬休み
☎ 粕川町中之沢492-1

公式ホームページ

NPO法人が管理をしています
 平成31年から同施設を管理しているのが、「まえばし農学舎」です。農業体験や食育を子どもたちに教えることを目的に設立された団体で、酪農や養鶏、教員、観光などそれぞれの分野で活躍するメンバーが運営しています。同施設以外にも、三夜沢町のとんとん広場やざわざわ森などで赤城山の自然を生かしたさまざまな体験プログラムを展開しています。



◆身近で特別な体験を

この日同施設で実施されていた催し「親子キャンプ」には、2組の親子が参加していました。初めて同施設に来た親子と、夏にもキャンプに参加したりピーターの親子でした。まずは自分たちの寝床を作るテント張りから。2組ともキャンプ経験者のため、慣れた手つきで4人用のテントが完成しました。その後は、近くを散策したりたき火で焼き芋をしたり、夜には炊き込みご飯や豚汁を作り、みんなでたき火を囲みながら食事を楽しみ大自然を満喫していました。夜は気温が低く冷えるため、おおさる山乃家では湯たんぽや電気毛布の貸し出しもしているそうです。初めてでも安心して来ることができそうです。

参加していた小学生は「キャンプで一番楽しいのは食べること。カレーやバーベキュー、外で食べるカップラーメンは特別な感じがして楽しい」「まきを使うて火を起こしたり包丁ではなくナイフを使って料理をしたりするのが新鮮だった」と語っていました。参加者同士で交流しながらまき割りやたき火などをして、ゆったりとした時間が流れているように感じました。



①川の音が聞こえる眺めの良い部屋②「森の謎解き」のクイズ③焼き物ワークショップの作品④10～20分でテントが完成⑤みんなで夕食の準備⑥道具の使い方を説明するまえばし農学舎の林さん⑦キャンプ飯が完成⑧キャンプ仲間だという利用者の皆さん

利用者の多くは市内やその周辺に地域に在住の人。訪れていた人に実際に話を聞くと、他の有名なキャンプ場と比べて近く、周りを気にしない方がいいひっそりとした所が魅力。また、仲間同士で過ごせるのも楽しみだと語っていました。

コロナ禍でなかなか集まるのが難しい今だからこそ開放的な空間で、少人数で周りを気にせず楽しむことができるのが大きな魅力のようです。

編集後記

前橋に住んでいても「この場所を知らなかった」「訪れたことがなかった」という人も多いのでは。ぜひこの機会に訪れて、前橋の自然や魅力を再発見してみてください。

キャンプに参加していた人は「屋外でも少なく、のんびりした環境で子どもと過ごせるのが良い」と話していました。宿泊も安くできるのでおすすめです！



ワカモノ記者

SNSも見てください！

Instagram

フェイスブック